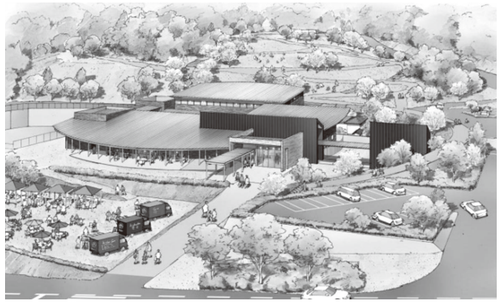
◀これまでの「〔連載特集〕つながる つなげる」は、町ホームページからご覧いただけます。

わずか74年後には、日本の人口が今の半数に減少すると見込まれるなか、“ふるさと熊野”を子や孫に残すために、私たちには今できることがあります。

個性豊かな文化を活かした魅力的なまちづくりも、移住する場所、住み続ける場所として人々をまちに惹き付ける大切な取り組みの一つのはずです。

熊野町は、筆産業とそれにより培われた文化芸術が息づくまちです。このソフトパワーを活かし、この地に住む人々がつながり、まちと文化を未来につなげるため、都市公園と観光交流拠点施設の整備を進めています。



～ 創作館落成式を行いました ～











完成した観光交流拠点施設は、熊野町美術博物館 筆の里工房 創作館として９月23日(水･祝)にオープンしました。

当日は2,600人を超える来館者が筆をはじめ色々な筆記具を使って創作体験などを楽しみました。中庭に面した窓ガラスに直接描き込むお絵描きコーナーには子どもたちの笑顔や真剣なまなざしがあふれ、弾む声が一帯に響き渡りました。

一般開放に先立ち行った落成式には、国会議員、国･県の関係機関、近隣市町や関係自治体、設計･施工事業者、地域住民など、多くの来賓の皆さんをお迎えし、厳粛な雰囲気のうちに執り行うことができました。



三村町長が式辞を述べました。
「多くの町民が集い、新たな交流と創造が生まれる「まちの宝」として、末永く愛される施設にしてまいります。」



時光議長が挨拶をしました。
「この施設が未来の熊野町を担う貴重な財産として発展するよう見守り、支援してまいります。」



岩田副町長が工事の経過状況を報告しました。

来賓の皆さんから祝辞をいただきました。


衆議院議員
新谷正義様


衆議院議員
斉藤鉄夫様


参議院議員
越智俊之様


広島県知事代理
木村成弘様


中国地方整備局
楠田勝彦様



設計･施工事業者に町から感謝状が贈られました。



〔設計〕
環境デザイン機構角建築研究室共同体　岡　大輔様

〔施工〕
河井建設工業株式会社　河井光誠様
株式会社熊野技建　小田原卓哉様

～ 創作館オープニング記念講演会を開催しました ～

演題　「AI時代における脳活のススメ」　　**講師　脳科学者　中野信子さん**

AI(人工知能)が社会に急速に浸透しています。私たちの生活を今より便利で効率の良いものに変えてくれることが期待される反面、システムの暴走や雇用の喪失といった様々な問題も心配されています。

AIは日々発達し、進化しているようです。これからのAI時代のなか、私たちは未来の科学技術と固有の文化や芸術とを融合させ、共存して新たな文化を築いてゆけるのでしょうか。

落成式に続き開催した講演会では、脳科学者から見たAI時代における創作的、創造的活動の意義や効果などについて、ユーモアを交えながら語っていただきました。



(中野さんのお話から次のようなメッセージを読み解きました。)



AIは便利だけれども功罪がある。脳科学の分野でも色々と研究されており、脳の活動量が47%低下したという報告もある。もともと私たちが持っている潜在能力を怠けさせ、批判的な思考が損なわれてしまうのではないかといった心配がある。

嘘のAI情報であっても、もっともらしい内容だと誰も批判することができない。企業レベルや国家レベルがAI情報を誤信してしまうと、私たちの暮らしはどうなってしまうのかと考えさせられてしまう。

子どものIQ(知能指数)は年々上がる傾向だったが、2010年台に生まれの子どもで初めて、低下が見られた。デジタル教育や手を使った遊びが少なくなった影響かもしれない。子どもたちが無条件にAIを使い続けるとIQは常に前の世代を下回ってしまうといった恐れがあり、教育の課題になっている。

西洋哲学では、工芸や音楽などは言語活動などよりも低い価値づけがなされてきた。私たちの感覚ではそうした活動をする人たち、たとえば人間国宝などは尊敬される対象である。日本人にとって手や体を動かす身体活動で癒されることはあたりまえのこととして、それをあえて言語化してこなかった。

フランスの精神科医フィリップ･ピネルは、日本の工芸を見て、体を使う作業で人間は“癒される”のではないかと思い立った。それが後に作業療法として確立されてゆくことになった。

私たち日本人は、西欧人にない「手や体の哲学」を文化的に持っていたということがいえる。

言語化されない「手や体の哲学」などの知恵の情報は、大規模言語モデルである現在のAIでは欠落して残らない。体を使う行為をAI時代にも積極的に残す努力をしないといけない。

メールの画面ではわからなくても、筆跡のある手書きの手紙からは書く人の考えや背景までもが見えてくる。そうしたことから意見の対立などで生じる緊張状態を避けることもできたりする。

手を動かすことは、認知機能を高める「脳力トレーニング」になる。

中野さんのプロフィール	東京都出身。東京大学工学部卒業、同大学院医学系研究科脳神経医学専攻博士課程修了。医学博士。その後、フランスの国立研究所に勤務。脳科学、認知科学の知見をベースに、人間の心理、社会現象などを多角的に分析。わかりやすく明快な語り口で解説し、多数のテレビ番組や執筆活動で活躍。

(この記事をもって連載特集を終了します。)